

付属資料

関連する主な SDGs	114
施策分野と国の総合戦略との関係	116
計画の策定経過	117
市民参加の状況	118
新大和市総合計画基本構想・基本計画骨子(案) について(諮問・答申)	120
総合計画審議会委員名簿	128
成果指標と目標値の設定理由	129
その他の資料	141

関連する主な SDGs

将来都市像実現に向けた目標	施策分野	1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に
		1	2	3	4	5	6
		貧困をなくそう	飢餓をゼロに	すべての人に健康と福祉を	質の高い教育をみんなに	ジェンダー平等を実現しよう	安全な水とトイレを世界中に
1 いつまでもみんなが元気でいられるまち	健康づくり・健康増進		●	●			
	医療			●			
	スポーツ・運動			●			
	生涯学習				●		
	文化・芸術				●		
2 将来を切りひらくことのできるこどもが育つまち	こども・若者	●	●	●	●	●	
	学校教育		●	●	●	●	
3 みんなが支え合うまち	地域福祉	●		●			
	高齢者福祉		●	●			
	障がい者福祉			●			
	社会保険・公的扶助	●	●	●			
4 地域の絆が深く、多様性を認め合うまち	地域活動						
	市民活動						
	人権・男女共同参画				●	●	
	多文化共生				●		
	平和				●		
5 にぎわいを生み出すまち	商工業				●		
	農業		●				
	イベント・観光						
6 安心して暮らせる安全なまち	防災						
	生活安全			●			
	基地安全対策						
7 人と環境に優しい都市空間が広がるまち	環境保全			●			●
	都市環境整備	●					

行政経営の方針【基本方針】

1	市民に開かれた行政経営					
2	変化に対応できる行政経営					
3	誰もが活躍できる行政経営					

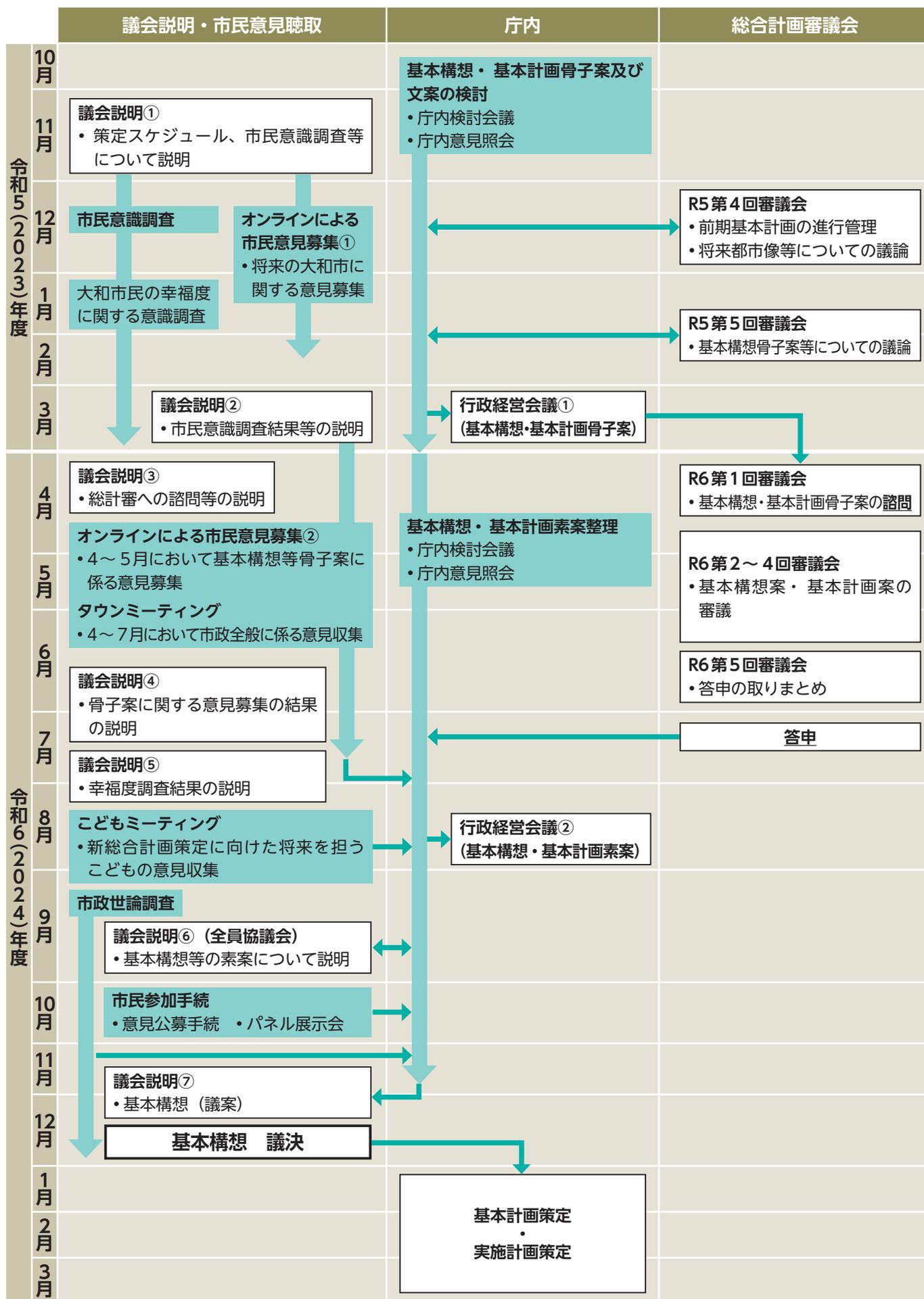
7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	8 働きがいも 経済成長も	9 産業と技術革新の 基盤をつくろう	10 人や国の不平等を なくそう	11 住み続けられる まちづくりを	12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に 具体的な対策を	14 海の豊かさを 守ろう	15 陸の豊かさも 守ろう	16 平和と公正を すべての人に	17 パートナーシップで 目標を達成しよう
7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
エネルギーを みんなにそして クリーンに	働きがい も経済成 長も	産業と技術 革新の基盤 を作ろう	人や国の 不平等を なくそう	住み続け られるまち づくりを	つくる責任、 つかう責任	気候変動 に具体的 な対策を	海の豊か さを守ろ う	陸の豊か さも守ろ う	平和と公 正をすべ ての人に	パートナ シップで目 標を達成し よう
	●				●					●
	●			●						●
										●
										●
				●						●
			●						●	●
										●
	●			●						●
	●		●							●
	●		●							●
										●
										●
			●						●	●
				●						●
				●	●					●
				●						●
●	●	●				●				●
	●	●								●
	●									●
		●		●		●				●
				●	●				●	●
				●						●
●				●	●	●	●	●		●
		●		●						●
									●	●
	●								●	●

施策分野と国の総合戦略との関係

将来都市像実現に向けた目標	基本計画における施策分野	国の総合戦略における取り組み			
		①地方に仕事をつくる	②人の流れをつくる	③結婚・出産・子育ての希望をかなえる	④魅力的な地域をつくる
1 いつまでもみんなが元気でいられるまち	1-1 健康づくり・健康増進				●
	1-2 医療				●
	1-3 スポーツ・運動				●
	1-4 生涯学習				●
	1-5 文化・芸術				●
2 将来を切りひらくことのできる子どもが育つまち	2-1 こども・若者			●	●
	2-2 学校教育			●	●
3 みんなが支え合うまち	3-1 地域福祉				●
	3-2 高齢者福祉			●	●
	3-3 障がい者福祉				●
	3-4 社会保険・公的扶助				●
4 地域の絆が深く、多様性を認め合うまち	4-1 地域活動				●
	4-2 市民活動				●
	4-3 人権・男女共同参画			●	●
	4-4 多文化共生				●
	4-5 平和				●
5 にぎわいを生み出すまち	5-1 商工業	●			●
	5-2 農業	●			●
	5-3 イベント・観光		●		●
6 安心して暮らせる安全なまち	6-1 防災				●
	6-2 生活安全				●
	6-3 基地安全対策				●
7 人と環境に優しい都市空間が広がるまち	7-1 環境保全		●		●
	7-2 都市環境整備		●		●
行政経営の方針		●	●	●	●

※上記の関係表は、国の総合戦略に掲げられた取り組み（令和5年12月時点）と、関連する施策分野等の主な対応を示しています。このため、施策分野のもとに位置付けている個別の事務事業が、上記以外の国の取り組みと関係する場合があります。

計画の策定経過



市民参加等の状況

1 市民意識に関する調査

新総合計画において示す政策や施策の方向性等の検討の参考にするとともに、成果指標の実績値を確認するため、16歳以上の市民を対象にアンケート形式による調査を実施しました。

【市民意識調査】

- 調査期間：令和5年12月14日～12月31日
- 対象人数：5,000人
- 回収結果：1,950通（回収率39.0%）
- 調査内容：市への愛着度、定住の意向、人生の現在の状況、各施策に対する意識、まちづくりの分野に対する満足度・重要度等

【大和市民の幸福度に関する意識調査】

- 調査期間：令和6年1月12日～1月26日
- 対象人数：5,000人
- 回収結果：1,842通（回収率36.8%）
- 調査内容：人生の現在の状況、幸せにとって重要なもの、心を許せる人の存在等

【市政世論調査（市民意識調査と市民幸福度調査を含む調査）】

- 調査期間：令和6年9月10日～9月24日
- 対象人数：7,000人
- 回収結果：2,499通（回収率35.7%）
- 調査内容：大和市の魅力・イメージ、市への愛着度、定住の意向、人生の現在の状況、各施策に対する意識、まちづくりの分野に対する満足度・重要度等

2 オンライン等による市民意見募集

新総合計画において示す政策や施策の方向性等の検討の参考とするため、広く市民を対象に、オンライン等による意見募集を実施しました。

【1回目】

- 調査期間：令和5年12月1日～令和6年2月28日
- 応募人数：99人（171件）
- 募集内容：「未来のやまと」をテーマに、将来の大和市に望む姿について意見を募集

【2回目】

- 調査期間：令和6年4月12日～5月17日
- 応募人数：111人（177件）
- 募集内容：新大和市総合計画基本構想・基本計画骨子案に対して意見を募集

3 大和市総合計画審議会

新大和市総合計画基本構想・基本計画骨子（案）に関する諮問について、有識者や公募市民により構成する総合計画審議会にて審議を行いました。

- 実施期間：令和6年4月4日～7月4日（審議及び答申 全6回）
- 委員：18名（うち、公募市民4名）

※審議内容をまとめた答申は、P120参照

4 タウンミーティング

新総合計画において示す施策の方向性、主な取組の内容等の検討の参考とするため、市民と市長が直接対話を行うタウンミーティングを実施しました。

- 実施期間：令和6年4月29日～7月18日（全20回）
- 実施場所：市内の学習センター、コミュニティセンター
- 参加人数：413人
- テーマ：次期総合計画に関すること及び市政に関すること

5 こどもミーティング

新総合計画において示す施策の方向性、主な取組の内容等の検討の参考とするため、将来を担うこどもと市長が直接意見交換を行うこどもミーティングを実施しました。

- 実施日：令和6年8月3日、4日、18日（全3回）
- 実施場所：大和市役所5階全員協議会室
- 参加人数：市内の小中学校に通う児童生徒 全88人
- テーマ：未来の大和市が『いいね!』と言われるために、これから何をするといいか

6 意見公募手続

新大和市総合計画基本構想・基本計画の素案について、市民の意見を聴取するため、パブリックコメントを実施しました。

- 実施期間：令和6年10月1日～10月31日
- 意見数：22件

7 市民意見交換会（パネル展示会）

新大和市総合計画基本構想・基本計画の素案について、市民の意見を聴取するため、ポスターセッション方式で地域住民へ新総合計画の概要を説明するパネル展示会を実施しました。

- 実施期間：令和6年10月10日～10月29日（全9回）
- 開催回数：全9回（市内6か所）
- 参加者数：203人
- 意見数：166件

新大和市総合計画基本構想・ 基本計画骨子（案）について （諮問・答申）

【諮問】

大和市総合計画審議会 会長 殿

新大和市総合計画基本構想・基本計画骨子（案）について（諮問）

このことについて、新大和市総合計画を策定するにあたり、別添「新大和市総合計画基本構想・基本計画骨子（案）」に関する貴審議会の意見を求めます。

令和6年4月4日
大和市長 古谷田 力

【答申】

大和市長 古谷田 力 殿

新大和市総合計画基本構想・基本計画骨子（案）について（答申）

令和6年4月4日付けをもって諮問がありました新大和市総合計画基本構想・基本計画骨子（案）について、慎重に審議を行い、その結果、別紙のとおり意見を取りまとめましたので、新大和市総合計画基本構想・基本計画を策定する際には、できる限りその趣旨を反映するようお願いいたします。

令和6年7月4日
大和市総合計画審議会 会長 中林 一樹

新大和市総合計画基本構想・基本計画骨子（案）に対する意見

1. 将来都市像

- 将来都市像「みんながつながる健幸都市やまと」について、その趣旨を市民としっかり共有できるよう、「つながり」や「健幸」の概念などを丁寧に説明すること。

2. 計画期間（目標年次）

- 総合計画は、中長期的な展望を示しながらも、社会情勢等の変化に迅速かつ柔軟に対応できるよう、骨子（案）のとおり、基本構想を10年間（令和7年度～令和16年度）、基本計画を5年間（令和7年度～令和11年度）、実施計画を3年間（毎年度見直し）として策定することが適当と考える。

3. 計画期間における人口の推移

- 大和市の総人口は、計画期間中に増加することを見込んでいるが、施策を検討するうえでは、年齢構成の変化をとらえることが大変重要である。今後、年少人口は横ばい、生産年齢人口は減少、高齢者人口は増加といった人口推移を見据えて施策展開が図れるよう、総人口の推移だけでなく年齢構成の変化について明示することも必要と考える。

4. 土地利用の方向

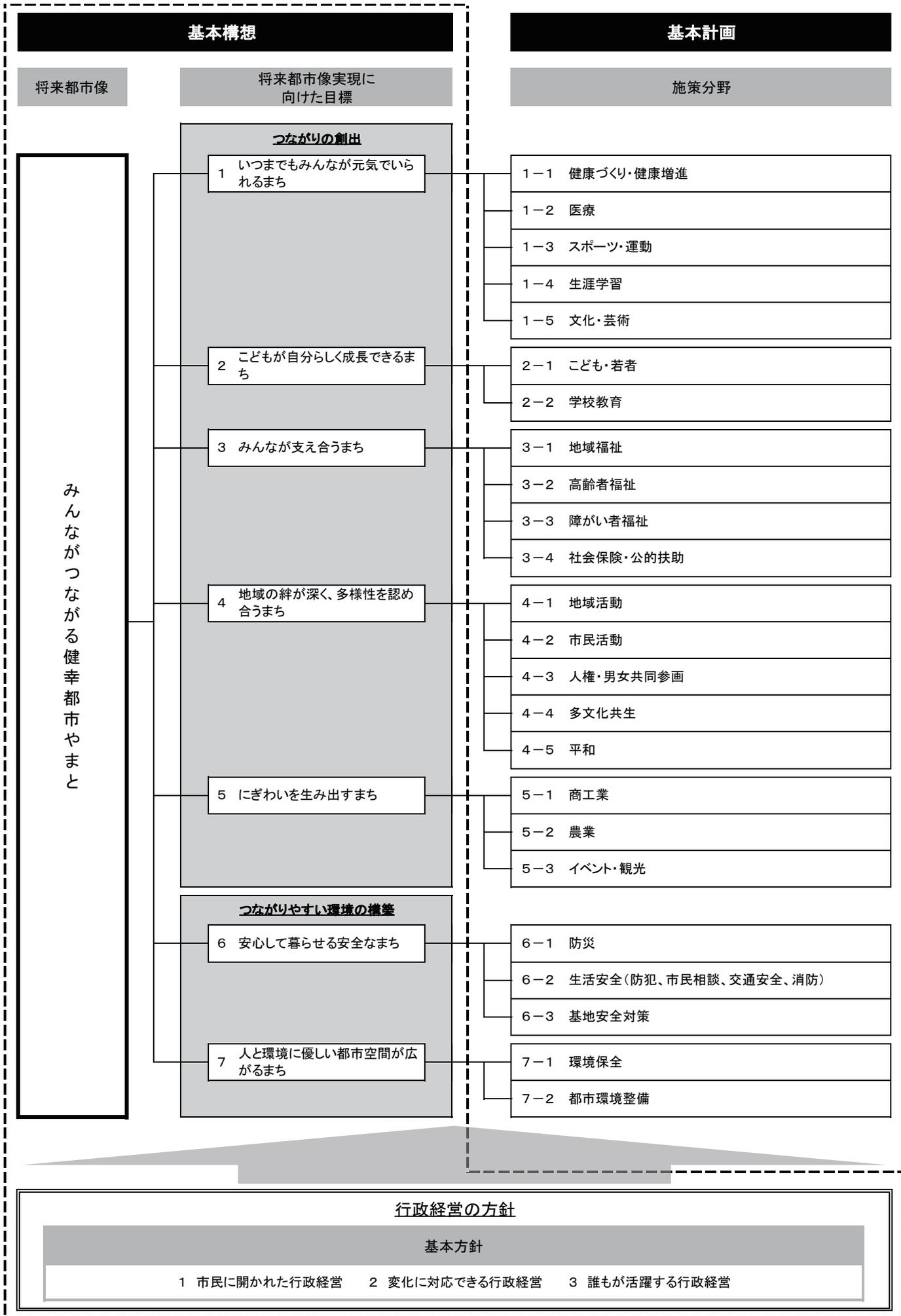
- 総合計画として今後10年間の方向を示すうえでは、一部の地区について具体的に示すなどの断定的な表現は避け、大局的な視点を踏まえた方向とすること。
- 大和市では、市の北部、中部、南部の地域において、人口の推移や高齢化率の傾向が異なるため、それぞれの地域の社会動向を踏まえた土地利用の方向を示すことについて検討すること。

5. 財政運営の方向

- 社会保障関連経費等が増加する一方で、大幅な税収増がないと見込まれる中では、受益者負担の適正化や公共施設の有効活用と適正配置などを進めることは重要だが、市民のニーズを的確に捉えることが前提となることに留意すること。

6. 計画の体系

- 「将来都市像実現に向けた目標3 こどもが将来に希望を持って生きるまち」について、こどもを対象とした支援施策や教育施策だけでなく、親や家族を対象とした子育て施策も包含できるような表現へ変更することが適切であると考え。
- 「行政経営の方針」において大事にすることとして掲げている「市民の声を聞くとともに市の取り組みを市民に分かってもらえること」、「広域の連携を含む様々な協力を進めること」及び「市民サービス向上などに向けて新しい技術を取り入れること」については、様々な施策を運営し、実現するための方針なので、基本方針とは別のものとするのではなく、一体的に示すことで分かりやすくなるものとする。
- 「行政経営の方針」は、市役所だけでなく、市民や事業者などにも関係する部分であるため、基本方針の語尾を「市役所」とする表現の見直しが必要と考える。
- 「基本方針2 スピード感のある市役所」が、社会の変化への迅速な対応の実現を目指すことを意図しているのであれば、それをよりの確に示す表現への見直しが必要と考える。
- 7つの「将来都市像実現に向けた目標」について、共通性を踏まえたグループにまとめることや、関連が近い目標を前後に並べることで、より分かりやすい体系になると考える。
- 以上のことを踏まえ、次のような計画の体系とすることについて検討すること。



7. 基本計画に係る事項

※以降は、本答申における計画体系（案）に基づき、主要な意見を示す。

(1) 総括的事項

- 総合計画の策定にあたって、今後の施策を市民と共有しながら進めていくためには、文章の主語に意を注ぎ、市の取り組みの方針や市民と市の役割分担などを具体的に、分かりやすく、丁寧に示すこと。
- 総合計画の進行管理を適切に実施するため、主観指標だけでなく、客観指標の設定も検討すること。また、施策の成果を適切に把握できるよう、「施策分野」に対してアウトカム指標だけを設定するのではなく、「施策分野」のもとで展開する施策に対してアウトプット指標も含めた指標を設定することについて検討すること。加えて、行政経営の方針に対する、成果を計る指標の設定についても検討すること。
- 市民意識調査に基づく主観指標を設定する際は、社会状況に対する第三者としての評価ではなく、可能な限り、回答者本人の意識や行動が反映される指標とするように配慮すること。また、市民意識調査の実施にあたっては、市民が、その趣旨を正しく理解できる質問となるよう、十分に検討すること。
- 各施策分野における主な取り組みを提示する場合は、市が重点を置いている取り組みが示されていると認識される可能性があることを踏まえて、過不足がないように留意するとともに、示す取り組みは統一的な基準に基づいて選択すること。
- 各施策分野に関連するSDGsの17のゴールを提示する場合は、各ゴールに紐づいているターゲットなども参考にして、適切なものを選択すること。

(2) 施策分野に関する検討事項

施策分野 1-1 健康づくり・健康増進

- 神奈川県が進めている未病改善の考え方を踏まえた取り組みを当施策分野に位置付けることについて検討すること。
- 喫煙対策に関する方針等を示す場合は、市が実施する支援等を具体的にイメージできる内容とすることについて検討すること。また、喫煙対策の推進にあたっては、たばこ税が減少することも含めて検討すること。

施策分野 1-2 医療

- 当施策分野における施策の目標を設定する場合は、行政が実施主体であることを踏まえた表現とすること。
- 当施策分野において、在宅医療と介護の一体的提供の促進を主な取り組みとして掲げる場合は、関連する個別計画として、大和市高齢者保健福祉計画や介護保険事業計画を掲載することが適切であると考えられる。

施策分野 1-4 生涯学習

- 豊かな暮らしのためには、年齢を問わず、市民が気軽に学べる環境が重要であることや、近年、「学び直し」の必要性が高まっていることを踏まえた方針を示すことについて検討すること。
- 学びを支える人材や団体に関し、現在、行っている活動のみならず、その後継者づくりについても支援をしっかりと行う必要があるため、その方針を示すことについて検討すること。
- 当施策分野に関連して読書に関する課題等を示す場合は、一般的な考え方にとどまらず、大和市における取り組みの状況を踏まえた内容とすること。

施策分野 1-5 文化・芸術

- 将来の担い手を育成する役割もある現在の担い手への支援をしっかりと行う必要があるため、その方針を示すことについて検討すること。

施策分野 2-1 こども・若者

- 放課後児童クラブに関し、全国的には開設場所や運営人員が課題となっているところであるが、大和市においても課題があるのであれば、その旨を示すことについて検討すること。
- 不適切保育が社会問題となっている背景を踏まえ、安全安心な保育環境の確保や保育士の待遇の向上など、保育環境の質の向上に関する方針等を当施策分野に示すことについて検討すること。
- こども・若者の居場所の創出においては、こども・若者が積極的に活動できる場としての要素も含めていくことが求められると考える。また、こども食堂など、様々な家庭を支援する民間団体への活動支援も重要となる。こうしたことを踏まえながら、主な取り組み等を示すことについて検討すること。

施策分野 2-2 学校教育

- 当施策分野は、主な対象者が小中学校の児童生徒であるため、主観指標を設定する場合は、児童生徒を対象とした意識調査に基づく指標の設定について十分に検討すること。また、主観指標だけでなく、学力テストの結果など、成果を端的に示すことのできる客観指標の設定についても検討すること。
- 今後、重要になると考えられている主権者教育や人権教育に関連した主な取り組みを示すことについて検討すること。
- 社会的な動向として、今後は、基礎能力としてのデジタル・リテラシーやデータ・リテラシーの習得、また、豊かな人間性や社会性の育成が求められると考えられるため、これらに関する主な取り組みの提示について検討すること。
- 「未来のやまと」に関する市民意見募集の結果において、発達障がいを含めた障がい児の支援学校の創設等を求める意見が見受けられることを踏まえ、施策の方針等としての提示について検討すること。

施策分野 3-1 地域福祉

- 当施策分野は、地域における福祉の全体的な対応の仕組みに関する分野とし、包括的な支援や要支援者の権利擁護などを含むように施策の方針や主な取り組みを示すことについて検討すること。

施策分野 3-2 高齢者福祉

- 全国的に見ても増加している身寄りのない高齢の方やおひとりさまの高齢の方への支援に関する方針等を示すことについて検討すること。

施策分野 3-3 障がい者福祉

- 当施策分野においては、障がい児及びその保護者や家族も施策対象に含むことについて検討すること。

施策分野 3-4 社会保険・公的扶助

- 当施策分野における施策の成果を表す市民による主観指標の設定は難しいと考えられるため、困窮者支援に関する指標や、マイナンバーカードの普及率など、客観指標の設定について検討すること。

施策分野4-1 地域活動

- （「施策分野4-2 市民活動」も対象とした意見として）市民の「つながり」に着目した将来都市像の実現に向け、最も焦点を当てるべき施策分野は、「地域活動」と「市民活動」であると考えます。
- 地域活動の中核となる自治会活動への支援としては、経済的支援だけでなく、自治会が抱える課題に対する行政の伴走支援も重要である。
- 自治会加入率の減少が全国的に止まらない中、加入率だけではなく、自治会活動の内容からも当施策分野の成果を計ることについて検討すること。
- 「防災」を切り口とすることにより、地域活動の活性化が図られている事例があることを踏まえながら、あらゆる世代の方が地域活動に参加しやすくなる仕組みについて検討すること。
- 以上のような意見も踏まえ、市として、当該施策分野に積極的に取り組んでいく姿勢を示す内容とすることについて検討すること。
- 地域活動は、地域福祉とも密接な関係があるため、関連する個別計画を示す場合は、地域福祉計画の掲載について検討すること。

施策分野4-2 市民活動

- （「施策分野4-1 地域活動」も対象とした意見として）市民の「つながり」に着目した将来都市像の実現に向け、最も焦点を当てるべき施策分野は、「地域活動」と「市民活動」であると考えます。
- 福祉、教育、子育て支援など、公共的な分野での市民ニーズが多様化している中、行政のみならず、市民や事業者も公共的課題に取り組むことは有効な方策と考えられるため、協働の一層の推進や、地域に潜在的に存在する担い手と公共的課題をつなげる仕組みづくりに関する方針を示すことについて検討すること。
- 市民活動は、地域福祉とも密接な関係があるため、関連する個別計画を示す場合は、地域福祉計画の掲載について検討すること。

施策分野4-5 平和

- 「平和」は「健幸」の礎であり、世界で様々な紛争が起こっている中、平和都市宣言を行っている大和市として、市民の平和意識の醸成が必要であると考えます。
- 厚木基地や平和のシンボルなどを生かした啓発活動の展開や学校での平和教育の推進など、取り組みの充実について検討すること。

施策分野5-1 商工業

- 生産年齢人口の減少を見据え、年齢や性別、国籍に関わらず、働く希望のある人の就労を支援する方針を示すことについて検討すること。
- 商店街の活性化を目指す旨を示す場合は、空き店舗の活用や、歩きやすい商店街づくりなど、具体的な取り組み内容を示すことについて検討すること。
- 後継者がいないために廃業してしまう商店をなくすため、新たな担い手を呼び込む取り組みについて検討すること。
- 2027年の国際園芸博覧会やその後のテーマパークの開業を契機として、商工業の発展を図れるよう、方針等を示すことについて検討すること。
- 総合計画に、市として、SDGsを踏まえて企業等を支援する旨を示すことも考えられるが、実現が難しい面もあるため、CSR（企業の社会的責任）を踏まえて支援する旨を示す方が、企業等にとって、より取り組みやすいものになると考える。

施策分野5-2 農業

- 大和市では就農者が減少し、遊休農地が増加しているといった農業の危機的状況をしっかりと課題として示すことについて検討すること。
- 大和市の農業をこの先も継続させ、発展させていくためには、農を通じた地域住民の交流や、農業と福祉の連携、ふるさと納税との連携などの多様な切り口から、新たな取り組みを展開していくことが求められる。また、相続により農地が売却され、市街地化されるという流れを止めることも必要である。特に生産緑地については、市に対して買取りの申出があることを踏まえ、まちづくりにおける有効な活用方策を前もって検討しておくことが望ましい。

施策分野5-3 イベント・観光

- 2027年の国際園芸博覧会やその後のテーマパークの開業を見据え、交流人口の拡大、観光客の誘致を図る方針等を示すことについて検討すること。

施策分野6-1 防災

- 災害時に自助、共助及び公助が効果的に機能するよう、個人で行うべきこと、地域で協力すべきこと、行政が取り組むべきことを明確にするとともに、特に、自助として市民が取り組むべき具体的な内容を、適当な手段で示す必要があると考える。
- 当施策分野において、災害医療、避難行動要支援者や判断能力が不十分な方などに関する災害対応の課題は重要であるため、その方針等を明確に示すことについて検討すること。
- このほか、能登半島地震など過去の災害事例を踏まえ、災害対策を充実させていくため、次の取り組みに関する方向性を示すことについて検討すること。
 - ・ 個人で行うべき自助の取り組みへの支援や助成
 - ・ 無電柱化の推進による道路空間の確保
 - ・ 避難所におけるプライバシー確保に係る資機材の整備
 - ・ 女性に配慮した避難所の運営マニュアル
 - ・ ライフラインが止まっている中で在宅避難をしている人への支援体制
 - ・ 市内にある井戸の維持管理
 - ・ 医療的ケアが必要な人、妊婦、乳幼児などに対する災害時の対応
- 厚木基地がある大和市は、有事の際にミサイルが飛来する可能性が他自治体に比べて高いと考える市民が一定数いる可能性がある。このことを踏まえ、国民保護法に基づく市民の避難に関する方針を示すことについて検討すること。

施策分野6-2 生活安全

- 特殊詐欺による被害が後を絶たないことを課題と捉え、その対策に係る方針等を示すことについて検討すること。
- 近年、大和市内では自転車事故が多く発生していることを踏まえ、自転車に焦点を当てた啓発活動の推進や自転車通行帯の整備に関する方針を示すことについて検討すること。

施策分野7-1 環境保全

- 資源ごみを回収するリサイクルステーション付近では、ごみが散乱していることがあるという課題や、リサイクルステーションまで資源ごみを持ち込むことが難しい高齢の方等が増えているという課題に対し、資源ごみの戸別回収は有効な対応策となるため、その導入に関する方針を示すことについて検討すること。

施策分野7-2 都市環境整備

- 市内には、歩道がない、または狭い場所などがあり、道路が十分に整備されているとは言えないため、当施策分野において、歩道や自転車通行帯を含む道路の整備に関する方針を明確に示すことについて検討すること。
- 2027年の国際園芸博覧会やその後のテーマパークの開業を見据えた交通環境に関する方針等を示すことについて検討すること。

(3) 行政経営の方針に関する検討事項

基本方針1 市民に開かれた行政経営

- 市民に開かれた行政経営を進めていくうえでは、行政内で情報公開制度に則り、適切に情報公開が行われるとともに、市民への情報公開制度の普及を図ることが重要である。このため、情報公開制度の普及等に関する方針を示すことについて検討すること。
- 市民に開かれた行政経営のもとでは、市民参加や協働など、市民の役割も重要であることを明確に示すことについて検討すること。

基本方針2 変化に対応できる行政経営

- 変化に対応できる行政経営を進めるうえでは、デジタル技術を活用した業務改革が求められるところであり、当基本方針のもとに、業務改革の意識啓発に関する考え方を示すことについて検討すること。
- 市のデジタル化が地域のデジタル化促進につながることで、また、市民の誰もがデジタル化の恩恵を受けられることを目指し、デジタル技術の活用や市民のデジタル・リテラシーの向上に関する方針を示すことについて検討すること。
- 今後、生産年齢人口が減少し、税収の増加が見込みにくい中であって、大規模改修や建替を必要とする公共施設が増えていくことを踏まえると、これからの大和市の人口動態や市民ニーズに即した最適な公共施設の在り方や総量について検討を進める必要がある一方、将来都市像として「つながり」を増やしていくのであれば、一定程度の施設が必要となることも考慮する行政経営が求められる。

基本方針3 誰もが活躍できる行政経営

- 当基本方針においては、職員の潜在能力を引き出すことが重要であるため、職員の能力開発を目指すことを示すことが適切と考える。また、能力開発という目標のもとでは、業務に向かう姿勢といった個々の内面に関するだけでなく、地域課題に対応できる等、難しい業務に取り組めるような人材の育成に関する考え方を示すことについて検討すること。
- ワークライフバランスの促進や各種ハラスメントの防止など、職場環境の適正化に関する考え方をしっかりと示すことについて検討すること。

総合計画審議会委員名簿 (敬称略、50音順、答申時点)

委員氏名	役職等
池田 勝彦	大和市環境審議会 会長
糸賀 雅児	慶應義塾大学 名誉教授
宇佐美 貴	公募委員
大西 眞	公募委員
川淵 孝一	東京医科歯科大学大学院 名誉教授
黒岩 信	県央地域県政総合センター 所長
小出 篤	大和市デジタル戦略推進アドバイザー
小林 博	公募委員
高尾 智美	公募委員
田中 孝司	(株)地域環境計画 代表取締役
田中 寛規	アーティスト
豊田 宗裕	聖徳大学 教授
中林 一樹	東京都立大学 名誉教授 大和市都市計画審議会 会長
長谷川 愛子	箏曲演奏家 東京芸術大学附属高等学校 教諭
長谷川賢太郎	大和商工会議所 副会頭
福元 真由美	青山学院大学 教授 大和市子ども・子育て会議委員
眞壁 浩二	大和市農業委員会 会長
山元 哲夫	前大和市自治会連絡協議会 会長

成果指標と目標値の設定理由

めざす姿	成果指標	算出方法等	現状値	現状値の	目標値 2029年 (R11)	目標値の 設定理由	
				時点			
1-1-1 一人ひとりに健康づくりが定着し、元気で暮らしている	自ら健康づくりに取り組んでいる市民の割合	市政世論調査で測定	52.1%	令和6年9月	向上	継続的な向上を目指す。	
	高齢の方が地域で生き生きと活動していると思う市民の割合	市政世論調査で測定	43.7%	令和6年9月	向上	継続的な向上を目指す。	
	健康寿命(平均自立期間)と平均寿命の差	男	65歳の平均寿命－65歳の平均自立期間(介護保険の要介護1まで)	1.80年	令和2年12月	縮小	継続的な縮小を目指す。
		女		3.67年	令和2年12月	縮小	
	介護予防セミナー受講者数	介護予防にかかる各種講座の受講者数	1,187人	令和6年3月	1,270人	総合計画の人口推計における令和5年度から11年度の高齢者人口の伸び率が約7%であることを踏まえ、目標年次には、現状値から7%程度増加していることを目標とした。	
シルバー人材センター会員数	年度末会員数	924人	令和6年3月	981人	現状値を基準に、毎年度、前年度から1%程度増加させることを目標とした。		
1-1-2 心身の健康を維持・増進するための体制が整っている	心身の健康の維持・増進をサポートする環境が整っていると思う市民の割合	市政世論調査で測定	32.4%	令和6年9月	向上	継続的な向上を目指す。	
	肺癌検診受診率	肺癌検診受診者数 / 職域等で受診していない40歳以上の対象者 × 100	25.6%	令和6年3月	27.4%	令和元年度と5年度の実績値を比較すると1.3ポイントの増加であり、今後も同程度の推移となるよう、現状値を基準に、毎年度、前年度から0.3ポイント増加させることを目標とした。	
	特定健康診査の受診率	40歳以上の大和市国民健康保険加入者が、特定健康診査を受診した割合(法定報告値)	31.0%	令和6年11月	40.0%	第3期大和市国民健康保険データヘルス計画において定める目標値(令和11年度において40.0%)と同一とした。	
	肺炎等による死亡率(人口10万人あたりの死亡者数)	肺炎及びその他の呼吸器系の疾患による死亡者数 / 人口(10月1日現在) × 100,000	101.2人	令和6年3月	95.2人	平成30年度から令和5年度における実績値の推移の平均は0.8人の減少であることを踏まえ、現状値を基準に、毎年度、前年度から1人減少させることを目標とした。	
	自殺死亡率(人口10万人あたりの自殺者数)	自殺者数 / 人口(10月1日現在) × 100,000 (人口動態統計による自殺者数)	13.2人	令和5年12月	毎年13.6人	毎年、令和元年から5年の実績の平均値(16.0人)より15%少なくすることを目標とした。	
1-2-1 市民がいざというときに診療を受けられる体制が整っている	いざというときの診療体制が整っていると思う市民の割合	市政世論調査で測定	43.0%	令和6年9月	向上	継続的な向上を目指す。	

めざす姿	成果指標	算出方法等	現状値	現状値の	目標値 2029年 (R11)	目標値の 設定理由	
				時点			
1-2-1	市民がいざというときに診療を受けられる体制が整っている	休日夜間急患診療所（一次救急）の年間患者取扱件数	休日や夜間に受け入れた、内科や小児科の軽症患者の年間受診者数	11,536件	令和6年3月	毎年度 13,000件	コロナ禍の影響のない時期と同等の取扱件数（13,000件程度）に対応できる体制を維持することを目標とした。
		二次救急での中度・重度患者の割合	中度・重度患者数 / 総受診者数	23.5%	令和6年3月	27.1%	現状値を基準に、毎年度、0.6ポイント増加させることを目標とした。
1-2-2	市立病院が地域の基幹病院としての役割を果たしている	地域の診療所等から市立病院に紹介された患者の割合（紹介率）	紹介患者数 / (初診患者数-救急搬送患者数-休日・夜間受診患者数) × 100	78.8%	令和6年3月	80.0%	目標年次には、80.0%に達することを目標とした。
		市立病院から地域の診療所等に紹介した患者の割合（逆紹介率）	逆紹介患者数 / (初診患者数-救急搬送患者数-休日・夜間受診患者数) × 100	79.2%	令和6年3月	80.0%	目標年次には、80.0%に達することを目標とした。
		患者満足度調査における満足度の割合	外来患者、入院患者に対する満足度調査で測定	83.6%	令和5年9月	90.0%	目標年次には、90.0%に達することを目標とした。
		がん患者受入数（延べ）	延べがん患者受入数	36,381人	令和6年3月	39,546人	神奈川県地域医療構想における大和市を含む県央2次保健医療圏のがん患者数について、2010年から2030年の20年間で1.32倍増加する見込みであることにより、現状値を基準に、毎年度、同程度の増加（前年度比1.014倍）に対応できる体制とすることを目標とした。
		市立病院における救急車受入件数	救急車の受入件数	4,871件	令和6年3月	5,669件	大和市立病院経営計画において2021年度の実績3,592件に対し、2027年度の目標値を4,388件としていること（6年間で796件の増加）より、現状値を基準に、毎年度、同程度の増加（133件）に対応できる体制とすることを目標とした。
1-3-1	スポーツに関わる人が増えている	スポーツ活動（する、みる、ささえる）に親しんでいる市民の割合	市政世論調査で測定	38.0%	令和6年9月	向上	継続的な向上を目指す。
		市民1人あたりの公共スポーツ施設年間利用回数	市が設置するスポーツ施設の延べ利用者数 / 総人口	4.98回	令和6年3月	5.29回	現状値を基準に、毎年度、前年度から1%程度増加させることを目標とした。
		年1回以上直接会場でスポーツを観戦した市民の割合	スポーツ推進計画アンケート調査で測定	21.6%	令和5年11月	37.3%	第2期スポーツ推進計画において定める目標（2023年度に37.3%）を達成していないことを踏まえ、目標年次には37.3%に達することを目標とした。
		スポーツに関わるボランティア活動を経験したことがある市民の割合	スポーツ推進計画アンケート調査で測定	11.2%	令和5年11月	19.9%	第2期スポーツ推進計画において定める目標（2023年度に19.9%）を達成していないことを踏まえ、目標年次には19.9%に達することを目標とした。
		女子サッカーイベント参加者数	女子サッカー関連イベントの参加者数	7,511人	令和6年3月	9,360人	第2期スポーツ推進計画において定める目標（2023年度に9,360人）を達成していないことを踏まえ、目標年次には9,360人に達することを目標とした。

めざす姿	成果指標	算出方法等	現状値	現状値の	目標値 2029年 (R11)	目標値の 設定理由	
				時点			
1-3-1	スポーツに関わる人が増えている	総合型地域スポーツクラブを知っている市民の割合	スポーツ推進計画アンケート調査で測定	14.0%	令和5年11月	18.3%	第2期スポーツ推進計画において1年度あたり0.85ポイントの増加を目指していることを踏まえ、現状値を基準に、毎年度、前年度から0.85ポイント増加させることを目標とした。 ※目標年次におけるスポーツ推進計画アンケート調査は4月に実施予定であり、現状値の時点から5年5か月後となるため、目標値は現状値から5年後の値として算定した。
1-4-1	学びに携わる人が増えている	生涯学習活動を行っている市民の割合	市政世論調査で測定	25.0%	令和6年9月	向上	継続的な向上を目指す。
		市民1人あたりの年間図書貸出冊数	貸出冊数 / 総人口	5.51冊	令和6年3月	5.96冊	紙書籍の貸出冊数について、令和5年度から目標年次の来館者数の伸び率分の増加を目指すこと（目標年次において来館者数4,000,000人を目標とする。）、及び、電子書籍の貸出冊数について、令和5年度の実績値から市内小中学生数と同程度の増加を目指すこと（目標年次において市内小中学生全員への1回以上の貸出を目標とする。）から、目標年次には、現状値から0.45冊増加していることを目標とした。
		学習団体の登録数	学習センターで活動している学習団体の登録数	1,552団体	令和6年3月	1,631団体	目標年次には、5年間（計画期間相当）で1年度あたり1%の増加とする増加率でもって現状値を基準に算出した値（1,631団体）に達することを目標とした。
1-5-1	文化や芸術に親しむ人が増えている	文化や芸術活動に親しんでいる市民の割合	市政世論調査で測定	27.7%	令和6年9月	向上	継続的な向上を目指す。
		芸術文化ホール年間利用者数	芸術文化ホール（メインホール・サブホール・ギャラリー・練習室）利用者数	209,782人	令和6年3月	306,000人	目標年次には、平成28年度の芸術文化ホールの利用開始から令和5年度までの実績値の最大値（306,018人）と同程度の利用者数（306,000人）に達することを目標とした。
		YAMATO ART100参加イベント数	YAMATO ART100として採用した文化芸術イベント数	128イベント	令和6年3月	毎年度100イベント	対象期間中に100以上の文化芸術イベントの開催を目指していることを踏まえた目標とした。
1-5-2	郷土の文化がしっかりと引き継がれている	大和の歴史や文化財は、しっかりと継承されていると思う市民の割合	市政世論調査で測定	17.7%	令和6年9月	向上	継続的な向上を目指す。
		歴史文化施設の利用者数	郷土民家園+つる舞の里歴史資料館+下鶴間ふるさと館利用者（入園・入館者）数	37,025人	令和6年3月	50,280人	目標年次には、令和元年度から5年度までの実績値の最大値（50,280人）と同程度の利用者数に達することを目標とした。
2-1-1	すべてのこどもが大切にされ、すくすくと健康に育っている	こどもが健康に育っていると思う市民の割合	市政世論調査で測定	49.1%	令和6年9月	向上	継続的な向上を目指す。
		妊婦健康診査の平均受診回数	妊婦健康診査補助券使用枚数（妊婦健康診査受診数とみなす） / 妊婦健康診査補助券交付数（妊婦健康診査対象者数とみなす）×14回	11.3回	令和6年3月	毎年度14回	国が定める目標値と同一とした。

めざす姿	成果指標	算出方法等	現状値	現状値の	目標値 2029年 (R11)	目標値の 設定理由	
				時点			
2-1-1	すべての こどもが 大切にされ、 すくすくと 健康に育っ ている	4か月児健康診査の 受診率	4か月児健康診査を受 診した子どもの数 / 同健康診査対象児数 ×100	98.6%	令和6年 3月	毎年度 98.0%	毎年度、入院等やむを得ない事 情により受診できない対象児を 2%程度と見込み、その他全員 が受診することを目標とした。
		3歳6か月児健康診 査の受診率	3歳6か月児健康診査 を受診した子どもの数 / 同健康診査対象児数 ×100	97.9%	令和6年 3月	毎年度 98.0%	毎年度、入院等やむを得ない事 情により受診できない対象児を 2%程度と見込み、その他全員 が受診することを目標とした。
		児童支援利用計画 (障害児相談支援) 実利用者数	児童支援利用計画(障 害児相談支援)を利用 した児童の数	1,299人	令和6年 3月	1,767人	令和元年度から5年度における 実績値の推移の平均が約78人 の増加であることを踏まえ、現状 値を基準に、毎年度、前年度から 同程度(78人)の増加に対応でき る体制とすることを目標とした。
		3歳6か月児健康診 査で4本以上のむし 歯を有する者の割合	3歳6か月児健康診査 でむし歯が4本以上あ った子どもの数 / 同健康診査を受診した 子どもの数 ×100	1.65%	令和6年 3月	0%	神奈川県歯及び口腔の健康づく り推進計画(第2次)において、 3歳児で4本以上のむし歯を有す る者の割合の目標値が0%であ ることを踏まえ、目標年次に0% となることを目標とした。
		虐待相談受付件数	対応及び防止のために 受けた児童虐待に関す る相談件数(新規及び 再開)	220件	令和6年 3月	毎年度 235件	令和元年度から5年度の実績値 の平均は235件であること踏ま え、同程度の件数に対応できる 体制を維持することを目標とした。
2-1-2	安心して こどもを 生み育て ることができ ている	こどもを望んだ時から 子育て期間にかけて 必要な支援を受けら れると思う市民の 割合	市政世論調査で測定	30.4%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		妊娠届出時に専任保 健師による個別面接 (相談)を受けた市民 の割合	子育て何でも相談応援 センターの保健師が受 理した妊娠届出書の数 / 妊娠届出書の提出総 数	100%	令和6年 3月	毎年度 100%	毎年度、対象者全員が個別面接 (相談)を受けることを目指す。
		つどいの広場開設日 1日あたりの平均利 用者数	(市内「こどもーる」に おける年間利用児童数 +保護者数) / 開設日数	67.7人	令和6年 3月	90.7人	現状値を基準に、毎年度、前年 度から5%程度増加させることを 目標とした。
		保育所等の 待機児童数 (各年4月1日)	2017年度に厚生労働 省が変更した新たな定 義に基づく保育所等の 待機児童数	0人	令和6年 4月	毎年度 0人	毎年度、待機児童を発生させない ことを目指す。
		放課後児童クラブに 入会を希望する児童 のうち、入会できた 児童の割合 (各年5月1日)	放課後児童クラブ 入会児童数 / 入会希望者数 ×100	99.8%	令和6年 5月	毎年度 100%	毎年度、入会を希望する児童全 員が入会できることを目指す。
		保育施設に対し、 巡回訪問支援等を実 施した施設の割合 (年度ごと)	訪問を実施した保育 施設数 / 市内保育施設総数	97.3%	令和6年 3月	毎年度 100%	毎年度、全ての保育施設に訪問 することを目指す。
		2-1-3	こども・若者 の視点に 立った居場所 がある	こども・若者が安心 して過ごせる場所や しくみが整っていると 思う市民の割合	市政世論調査で測定	31.3%	令和6年 9月
こども食堂の数 (こども食堂マップに 掲載するこども食堂 の数)	こども食堂マップに掲載 するこども食堂の数			8箇所	令和6年 5月	13箇所	現状値を基準に、毎年度、前年 度から1箇所増やすことを目標と した。

めざす姿	成果指標	算出方法等	現状値	現状値の	目標値 2029年 (R11)	目標値の 設定理由	
				時点			
2-2-1 多様性を認め、つながり合い、高め合っている	児童生徒が互いの良さを生かし認め合い、大切にしながら学校生活を送っていると思う市民の割合	市政世論調査で測定	23.6%	令和6年9月	向上	継続的な向上を目指す。	
	「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と答えた児童生徒の割合	全国学力学習状況調査(対象は小6及び中3)で測定	96.1%	令和6年4月	100%	目標年次には、全ての回答者がいじめはどんな理由があってもいけないことだと思うと回答することを目標とした。	
	特別支援教育センターで扱った特別支援や発達に関する保護者や学校からの延べ相談件数	電話・窓口相談受付件数	436件	令和6年3月	496件	現状値を基準に、毎年度、前年度から10件の増加に対応できる体制とすることを目標とした。	
2-2-2 確かな学力と健康な心身が育まれている	児童生徒の個性や能力にあった教育が行われていると思う市民の割合	市政世論調査で測定	18.5%	令和6年9月	向上	継続的な向上を目指す。	
	学校生活を通して、児童生徒の健康な心身が育まれていると思う市民の割合	市政世論調査で測定	24.7%	令和6年9月	向上	継続的な向上を目指す。	
	「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と答えた児童生徒の割合	小6	全国学力学習状況調査で測定	86.7%	令和6年4月	93.4%	目標年次には、現状値の時点で学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると答えていない児童の割合(13.3%)を半減させることを目標とした。
		中3	全国学力学習状況調査で測定	87.7%	令和6年4月	93.9%	目標年次には、現状値の時点で学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると答えていない生徒の割合(12.3%)を半減させることを目標とした。
	「ノートや教科書、本などと同じようにPCを活用している」と答えた児童生徒の割合	小	小学生を対象としたアンケート調査で測定	89.0%	令和6年3月	95.0%	目標年次には、学習用端末を適切に活用できる児童が95%に達することを目標とした。
		中	中学生を対象としたアンケート調査で測定	82.0%	令和6年3月	90.0%	目標年次には、学習用端末を適切に活用できる生徒が90%に達することを目標とした。
	「自分には良いところがあると思う」と答えた児童生徒の割合	全国学力学習状況調査(対象は小6及び中3)で測定	84.8%	令和6年4月	92.4%	目標年次には、現状値の時点で自分には良いところがあると思うと答えていない児童生徒の割合(15.2%)を半減させることを目標とした。	
	「運動やスポーツは大切だと考える」と答えた児童生徒の割合	全国体力・運動能力、運動習慣調査(対象は小5及び中2)で測定	93.2%	令和6年5~7月	96.6%	目標年次には、現状値の時点で運動やスポーツは大切だと考えると答えていない児童生徒の割合(6.8%)を半減させることを目標とした。	
	学校内外の機関等で専門的な相談・指導等を受けた不登校児童生徒の割合	小	市内各学校に対して行った不登校児童に関する調査で測定	70.9%	令和6年3月	82.9%	現状値を基準に、毎年度、前年度から2ポイント増加させることを目標とした。
中		市内各学校に対して行った不登校生徒に関する調査で測定	57.6%	令和6年3月	72.6%	現状値を基準に、毎年度、前年度から2.5ポイント増加させることを目標とした。	

めざす姿	成果指標	算出方法等	現状値	現状値の	目標値 2029年 (R11)	目標値の 設定理由	
				時点			
3-1-1	地域の中で 共に助け合っ て生活できて いる	地域で共に助け合っ て生活していると思う 市民の割合	市政世論調査で測定	28.5%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		民生委員・児童委員 充足率	民生委員児童委員の委 嘱数 / 民生委員児童委員の 定数	93.1%	令和6年 3月	毎年度 100%	毎年度、民生委員・児童委員の 定数を満たすことを目指す。
		協議体の設置数 (累計)	第2層協議体の 設置数	6箇所	令和6年 3月	12箇所	現状値を基準に、毎年度、前年 度から1箇所増加させることを目 標とした。
3-2-1	高齢の方や その家族が 安心して暮 らしている	介護を必要とする人 が地域で安心して暮 らしていると思う市民 の割合	市政世論調査で測定	20.7%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		介護サービス利用者 の満足度の割合	大和市高齢者保健福祉 計画・介護保険事業計 画策定のための実態調 査で測定	67.7%	令和5年 1月	71.2%	現状値を基準に、毎年度、前年 度から0.5ポイント増加させるこ とを目標とした。
		終活登録制度の新規 登録者数	1年間の新規登録者数 (年度ごと)	8人	令和6年 3月	24人	現状値を基準に、毎年度、前年 度から20%増やすことを目標と した。
		認知症サポーター となっている市民の 割合	認知症サポーター養成 講座受講済数 / 総人口 ×100	10.0%	令和6年 3月	17.0%	認知症サポーター養成講座受講 済人数について、令和5年度実 績値(24,443人)を基準に、毎 年度、新規サポーターを3,000人 程度増加させることを目標とした。
3-3-1	障がいの ある方が 地域の中で 自立した生活 を送っている	障がいのある方が地 域で自立した生活を 送っていると思う市民 の割合	市政世論調査で測定	14.0%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		施設入所者の地域生 活移行者数(累計)	福祉施設から、自宅や グループホームなど での生活へと移行した人 の累計	2人 (令和4年 度からの 累計)	令和6年 11月	17人	第7期障がい福祉計画で定めた 令和8年度末時点での施設入所 者数(134人)及び令和8年度 末時点での移行者数目標値(令 和5年度から8年度までで9人) に加え、国の指針で示す移行率(令 和8年度末時点において、令和4 年度末時点の施設入所者の6% 以上)を踏まえ、令和8年度末 時点での目標値を9人とし、その 後、令和11年度までの3年間で の移行率を6%とする目標とし た。
		一般就労への 移行者数	福祉施設で、一般就労 に結び付いた人数	50人	令和6年 3月	78人	第7期障がい福祉計画において 定める目標(令和8年度に78人) を達成していないことを踏まえ、 目標年次には78人に達すること を目標とした。
3-4-1	社会保障の しくみが 安定的に維持 され、効果的 に活用されて いる	国民健康保険制度に おける1人あたりの医 療費の伸び率 (対前年度)	大和市国民健康保険加 入者1人あたりの医療 費の対前年度伸び率	3.4%	令和6年 3月	1.8%	目標年次には、令和元年度から 5年度までの平均値(2.1%)か ら0.3ポイント減少していること を目標とした。
		保護受給世帯のうち、 その他世帯(働く世 帯を含む)の割合	その他世帯(働く世帯 を含む)数 / 保護受給世帯総数 ×100	11.3%	令和6年 3月	毎年度 11.0%	令和元年度から5年度の実績値 の平均は約11%であること踏ま え、毎年度、同程度(11.0%)の 割合を超えないことを目標とし た。
		生活困窮自立支援の 利用者のうち就労・ 増収した人の割合	当該年度中の住居確保 給付金受給者のうち、 就労、増収した人の 割合	25.0%	令和6年 3月	毎年度 25.0%	毎年度、現状値(25.0%)に達 することを目標とした。

めざす姿	成果指標	算出方法等	現状値	現状値の	目標値 2029年 (R11)	目標値の 設定理由
				時点		
4-1-1 地域活動に関わる人が増えている	地域活動に参加している市民の割合	市政世論調査で測定	13.8%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
	自治会への加入世帯割合	自治会加入世帯 / 総世帯数 ×100	55.8%	令和6年 10月	毎年度 55.8%	毎年度、現状値と同程度の割合(55.8%)を維持することを目標とした。
	コミュニティセンター1館あたりの年間平均利用者数	全20館(1ヶ月以上休館した施設を除く)の年間平均利用者数	9,522人	令和6年 3月	18,162人	令和3年度から5年度における実績値の推移の平均は約1,440人の増加であること踏まえ、現状値を基準に、毎年度、前年度から1,440人増加させることを目標とした。
	持続可能な地域コミュニティづくりに向けた支援件数	持続可能な地域コミュニティづくりに向けた支援件数	20件	令和6年 3月	60件	目標年次には、現状値から40件増加していることを目標とした。
4-2-1 公共を担う市民や事業者が増えている	ボランティア活動やNPOの活動などの非営利かつ自主的な活動をしている市民の割合	市政世論調査で測定	9.9%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
	協働事業の件数	協働事業の実施数	12件	令和6年 4月	17件	現状値を基準に、毎年度、前年度から1件増加させることを目標とした。
	市民活動センター利用登録団体数	市民活動センター利用登録団体の数	142団体	令和6年 3月	172団体	現状値を基準に、毎年度、前年度から5団体増加させることを目標とした。
	「出張!ボランティア総合案内所」の来場者数	ボランティアに関する情報の提供をしている「出張!ボランティア総合案内所」の来場者数	207人	令和6年 3月	277人	現状値を基準に、毎年度、前年度から5%程度増加させることを目標とした。
	やまとボランティア総合案内所登録者数	やまとボランティア総合案内所登録者の数	448人	令和6年 3月	508人	現状値を基準に、毎年度、前年度から10人増加させることを目標とした。
4-3-1 あらゆる差別がなくすべての人が互いの人権を尊重し合っている	地域に差別意識がなく、お互いの人権が尊重されていると思う市民の割合	市政世論調査で測定	28.6%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
	人権意識啓発におけるイベントの来場者数	人権啓発イベント(人権擁護委員の日、人権週間)での啓発物品の配布数で測定	575人	令和6年 3月	毎年度 600人	毎年度、令和5年度までの実績における最大値と同程度の来場者数(600人)に達することを目標とした。
4-3-2 男女共同参画が実感できている	男女がいろいろな取り組みに平等に参加していると思う市民の割合	市政世論調査で測定	24.4%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
	審議会、委員会などにおける女性委員の割合	女性委員数 / 全委員数 ×100	29.5%	令和6年 4月	40.0%	国の第5次男女共同参画基本計画において定める成果目標を踏まえ、目標年次に40%に達することを目標とした。
4-4-1 地域の中で多文化共生が行われている	国籍に関わらず、住民同士が交流・協力していると思う市民の割合	市政世論調査で測定	23.8%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
	外国人を支援するボランティア登録者数	事業、通訳翻訳、クロスカルチャーセミナー、日本語・学習支援のボランティア登録者数	409人	令和6年 3月	毎年度 400人	毎年度、現状値と同程度の登録者数(400人)に達することを目標とした。

めざす姿	成果指標	算出方法等	現状値	現状値の	目標値 2029年 (R11)	目標値の 設定理由
				時点		
4-5-1 平和の尊さが 実感できて いる	平和の尊さを実感できる機会や取り組みがあると思う市民の割合	市政世論調査で測定	13.4%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
	語り部を派遣した市内小中学校及び高校の校数	語り部を派遣した学校数	6校	令和6年 3月	毎年度 10校	毎年度、校数が10校に達することを目標とした。
	平和意識の普及、啓発事業への参加者数	平和都市推進事業（パネル展、戦争体験を聞く会、平和メイン事業）への参加者数	902人	令和6年 3月	毎年度 1,000人	毎年度、参加者数が1,000人に達することを目標とした。
5-1-1 商店街や 企業が 持続可能性を 踏まえながら 活発に活動 している	大和市の商店街や企業は活気やにぎわいがあると思う市民の割合	市政世論調査で測定	24.1%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
	市内商業者が商店会等に加入している割合	商店街団体の加入事業者数 / 市内商業者数（小売業+卸売業）×100	60.6%	令和6年 3月	毎年度 60.0%	毎年度、現状値と同程度の割合（60.0%）に達することを目標とした。
	やまと起業家支援スペース「Rigel」の稼働率	入居区画数 / 全区画数 ×100	100%	令和6年 3月	毎年度 100%	毎年度、全ての区画が利用されることを目指す。
	やまと起業サポートセミナー募集定員に対する申込者数の割合	全申込者数 / 合計募集定員数 ×100	100%	令和6年 3月	毎年度 100%	毎年度、申込者数が募集定員に達することを目指す。
	大和市企業活動振興条例に基づく奨励金事業計画認定件数（累計）	新規立地奨励金、事業拡大奨励金及び設備投資奨励金における事業計画認定件数	41件	令和6年 3月	77件	制度開始時点（平成30年度）から令和5年度の実績値の平均は6件であること踏まえ、現状値を基準に、毎年度、前年度から6件増加させることを目標とした。
5-1-2 生き生きと 働くことが できている	大和市のお店や企業で働いている人は生き生きとしていると感じる市民の割合	市政世論調査で測定	24.2%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
	就労支援に係る各種セミナーの募集定員に対する参加者数の割合	全参加者数 / 合計募集定員数 ×100	72.0%	令和6年 3月	毎年度 77.5%	令和4年度及び5年度の実績値の平均は77.5%であること踏まえ、毎年度、同程度の割合（77.5%）に達することを目標とした。
	健康経営による産業表彰数（累計）	健康経営による産業表彰を受けた企業の件数	14事業者	令和6年 3月	26事業者	現状値を基準に、毎年度、前年度から2事業者増加させることを目標とした。
5-2-1 都市農業が 営まれ、 地域農産物が 安定的に消費 されている	市内産の農産物を買うことのできる場所やイベントが充実していると思う市民の割合	市政世論調査で測定	23.3%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
	農地の利用権設定面積	利用権設定（貸借）面積（農用地利用集積計画及び農用地利用集積等促進計画に基づく）	9.6ha	令和6年 3月	毎年度 10ha	毎年度、現状値と同程度の面積（10ha）に達することを目標とした。
	援農サポーターの登録者数	援農サポーターの登録者数	68人	令和6年 3月	毎年度 55人	毎年度、大和市都市農業振興基本計画に定めた目標値（2028年度に55人）に達することを目標とした。
	市民農園区画数	市民農園（民間含む）の区画数	1,114区画	令和6年 3月	毎年度 1,100区画	毎年度、現状値と同程度の区画数（1,100区画）に達することを目標とした。

めざす姿	成果指標	算出方法等	現状値	現状値の	目標値 2029年 (R11)	目標値の 設定理由	
				時点			
5-2-1	都市農業が 生まれ、 地域農産物が 安定的に消費 されている	市民農園の利用され ている区画の割合	市民農園（市営）の 利用区画割合	91.9%	令和6年 3月	毎年度 100%	毎年度、全ての区画が利用され ることを目指す。
		朝霧市、夕やけ市、 おさんぽマートの開催 1回あたりの来場者数	各直売会の総来場者数 / 開催回数	71人	令和6年 3月	毎年度 80人	令和4～5年度の実績の平均値 は約80人であることを踏まえ、 毎年度、同程度の来場者数（80 人）に達することを目標とした。
5-3-1	エンターテイン メントがあふれ、 まちへの 関心も 高まっている	市内外から人々が集 まり楽しめる、魅力的 なイベントが多いと思 う市民の割合	市政世論調査で測定	27.1%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		観光イベントの 総来場者数	各イベントの年間来場 者数（主催者発表）の 合計（1月～12月）	680,763 人	令和5年 12月	1,120,000 人	目標年次において、コロナ禍前の 令和元年の実績1,118,573人と 同程度（1,120,000人）に達する ことを目標とした。
		観光施設等の 総来場者数	各施設来場者数の合計 （1月～12月）	763,742 人	令和5年 12月	848,000 人	目標年次において、コロナ禍前の 令和元年の実績848,287人と同 程度（848,000人）に達するこ とを目標とした。
		フィルムコミッション で対応した撮影件数	フィルムコミッションによ る撮影件数（市及び民 間施設を含む）	47件	令和6年 3月	62件	目標年次には、平成27年度から 令和5年度の実績の最大値（62 件）に達することを目標とした。
6-1-1	災害に対して 自ら備えを している	災害に対して備えて いる市民の割合	市政世論調査で測定	28.2%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		地域防災訓練を実施 している自治会の 割合	地域防災訓練を実施し ている単位自治会数 / 全単位自治会数 ×100	53.0%	令和6年 3月	83.0%	現状値を基準に、毎年度、前年 度から5ポイント増加させるこ とを目標とした。
		防災講話の 受講団体数	市が実施する防災講話 を受講した団体数	26団体	令和6年 3月	44団体	現状値を基準に、毎年度、前年 度から3団体増加させることを目 標とした。
		避難行動要支援者名 簿をもとに、支援体 制づくりの取り組みを 行っている自治会の 割合	避難行動要支援者支援 制度に関するアンケート 調査で測定	43.2%	令和6年 3月	100%	目標年次には、全ての自治会が 取り組みを行っていることを目指 す。
		住宅の耐震化率	耐震性のある住宅戸数 / 住宅全戸数 ×100	96.1%	令和6年 3月	98.2% 以上	目標年次には、大和市耐震改修 促進計画における目標値（令和 10年度で98.2%）以上に達する ことを目標とした。
6-1-2	防災・減災の しくみが 整っている	災害による被害を軽 減するための取り組 みが充実している と思う市民の割合	市政世論調査で測定	18.8%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		想定避難者数に応じ た非常食料の備蓄率	都心南部直下地震に対 して想定している非常 食料の備蓄率	100%	令和6年 4月	毎年度 100%	毎年度、想定避難者数に応じた 非常食料が備蓄されていること を目指す。
		LINE お知らせで防災 情報の受信設定をし ている市民の数	LINE お知らせで防災情 報の受信設定をしてい る人数	25,237 人	令和6年 3月	31,900人	現状値を基準に、毎年度、前年 度から1,100人程度増加させる ことを目標とした。
6-1-3	都市の 防災機能が 充実している	雨水整備率	公共下水道による浸水 対策整備済区域面積 / 事業認可区域面積 ×100	69.8%	令和6年 3月	毎年度 70.0%	現状値と同程度のペース（整備 率70%）で整備を進めること を目標とした。
6-2-1	犯罪が 起きにくい 環境で 暮らしている	治安が良いと思う市 民の割合	市政世論調査で測定	45.1%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。

めざす姿	成果指標	算出方法等	現状値	現状値の	目標値 2029年 (R11)	目標値の 設定理由	
				時点			
6-2-1	犯罪が 起きにくい 環境で 暮らしている	年間刑法犯認知 (発生) 件数	市内の刑法犯認知 (発生) 件数 (1月～12月)	1,790件	令和5年 12月	1,250件	目標年次には、現状値から30% 程度減少していることを目標とし た。
		年間特殊詐欺(発生) 件数	市内の刑法犯認知 (発生) 件数(1月～ 12月)のうち、 特殊詐欺発生件数	55件	令和5年 12月	49件	目標年次には、現状値から10% 程度減少していることを目標とし た。
6-2-2	安心して 消費生活を 送っている	安心して消費生活を 送っている市民の 割合	市政世論調査で測定	57.4%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		消費生活相談件数の うち、解決済みの 割合	消費生活相談の件数 (総相談件数-斡旋不調 -継続件数) / 総相談件数 ×100	98.1%	令和6年 3月	毎年度 100%	毎年度、消費生活相談に係る全 ての案件を解決することを目指 す。
		消費生活センターの 役割や業務内容につ いて知っている市民 の割合	e-モニターで測定	56.0%	令和6年 3月	74.0%	現状値を基準に、毎年度、前年 度から3ポイント増加させること を目標とした。
6-2-3	交通事故が 起きにくい 環境で 暮らしている	交通事故の不安がなく 暮らしている市民の 割合	市政世論調査で測定	39.9%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		交通人身事故発生 件数	市内の交通事故の年間 発生件数(1月～12月)	661件	令和5年 12月	561件	目標年次には、現状値の85%以 下まで減少していることを目標と した。
		交通安全教室等参加 者数(イベントを除く)	イベントなどを除いた交 通安全教室等の参加者 数	15,572人	令和6年 3月	16,351人	目標年次には、現状値から5% 以上増加していることを目標とし た。
		自転車の適正通行率	車道の左側を通行する 自転車の台数 / 自転車通行台数 ×100 (調査実施場所:中央林 間駅周辺、大和駅周辺)	67.5%	令和6年 3月	72.5%	目標年次には、現状値から5ポ イント増加していることを目標とし た。
6-2-4	十分な消防力 が整っている	大和市では、消防・ 救急・救助体制が 整っていると思う市民 の割合	市政世論調査で測定	49.7%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		火災発生率 (人口1万人あたりの 火災発生件数)	火災発生件数(1～12月) / 人口 ×10,000	2.0件	令和5年 12月	毎年 0件	毎年、火災が発生しないことを目 指す。
		救命講習受講者資格 取得者数(累計)	救命講習終了者数	49,359 人	令和6年 3月	57,159人	現状値を基準に、毎年度、前年 度から1,300人増加させることを 目標とした。
		救急車の医療機関到 着までの所要時間	覚知から傷病者を医療 機関等に収容するまで に要した所要時間の合 計 / 医療機関等搬送件数 (年度)	38.5分	令和6年 3月	38.5分	現状値を維持することを目指 した。
6-3-1	厚木基地の 騒音対策や 安全対策が 進んでいる	時間帯補正等価騒音 レベル(Lden)	夕方及び夜間の騒音 に対しては重みづけを 行ったうえで評価した1 日の等価騒音レベルに 対し、全測定日のパワー 平均を算出したもの	60.4	令和6年 3月	逓減	継続的な逓減を目指す。

めざす姿	成果指標	算出方法等	現状値	現状値の	目標値 2029年 (R11)	目標値の 設定理由	
				時点			
7-1-1 脱炭素社会の実現に貢献している	省エネに取り組んでいる市民の割合	市政世論調査で測定	44.1%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。	
	温室効果ガス排出量の削減率 (2013年度比)	(1-当該年度温室効果ガス排出量/2013年度温室効果ガス排出量)×100	26.2%	令和4年 3月	43.8%	大和市地球温暖化対策実行計画において定める2030年度の目標値46%を達成できるよう、毎年度、現状値から2.2ポイント増加させることを目標とした。	
7-1-2 清潔なまちが維持されるとともに、循環型社会が実現されている	ごみの分別をしている市民の割合	市政世論調査で測定	88.9%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。	
	散乱ごみが少なく、きれいだと思う市民の割合	市政世論調査で測定	61.9%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。	
	市民一人1日あたりのごみ排出量	1年間の家庭系ごみ発生量(ごみ)/総人口(各年10月1日,推計人口)/365日(366日)	405g	令和6年 3月	400g	大和市一般廃棄物処理基本計画において、平成37(令和7)年度には平成26年度の実績値から10g削減することを目標としており、同程度の推移(1年間で約0.9g削減)となるよう、現状値を基準に、目標年次には5g減少していることを目標とした。	
	リサイクル率	実際に資源化された量/廃棄物の総排出量×100	28.4%	令和6年 3月	29.6%	令和5年度までの実績値に基づき、大和市一般廃棄物処理基本計画における推計手法により求めた目標年次における推計値を目標とした。	
	美化推進月間ごみ回収量	毎年11月の大和市美化推進月間のごみ回収量	5.83t	令和6年 3月	5.54t	目標年次には、現状値から5%程度減少していることを目標とした。	
7-1-3 緑地が保全されるとともに、市街地の緑化も進んでいる	緑が多いと思う市民の割合	市政世論調査で測定	59.1%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。	
	保全を図っている緑地面積	大和市と賃貸借契約などで保全を図っている緑地面積+行政で所有している緑地面積	84.5ha	令和6年 3月	84.5ha	現状値を維持することを目標とした。	
7-1-4 深呼吸したくなる空気や、きれいな水に囲まれて生活している	川などの水や大気の状態が良好だと思う市民の割合	市政世論調査で測定	38.4%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。	
	河川の水質の基準とされている生物化学的酸素要求量(BOD)	境川	境川及び引地川のBOD平均値	1.4mg/l	令和6年 3月	毎年度3.0mg/l以下	大和市環境基本計画に定める目標値(2027年度に向けた数値目標として境川は3.0mg/l以下、引地川は2.0mg/l以下と設定)を、毎年度、達成することを目標とした。
		引地川		1.1mg/l	令和6年 3月	毎年度2.0mg/l以下	
	環境基準適合率	環境基準適合項目の割合	94.6%	令和6年 3月	95.0%以上	目標年次には、95.0%以上に達することを目標とした。	
	公害苦情への対応件数	苦情受付、現地調査、事業所への指導まで行った件数	79件	令和6年 3月	75件	目標年次には、現状値から5%程度減少していることを目標とした。	
	下水道出前授業の実施校数	小学校4年生を対象とした下水道の仕組みや役割についての授業の実施校数	20校	令和6年 3月	毎年度20校	毎年度、市内全ての公立・私立小学校で実施することを目指す。	
7-2-1 地域の特性を生かした街が形成されている	良好な街並みが形成されていると思う市民の割合	市政世論調査で測定	43.6%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。	

めざす姿	成果指標	算出方法等	現状値	現状値の 時点	目標値 2029年 (R11)	目標値の 設定理由	
7-2-1	地域の特性を生かした街が形成されている	地区計画、建築協定、地区街づくり協定などルール化された面積(累計)	地区計画、建築協定、地区街づくり協定などルール化された面積の累計	138.8ha	令和6年4月	154.2ha	現状値に対し、目標年次までに誘導すべきと考える地区の区域面積を加えた目標とした。
		中央林間駅、大和駅、高座渋谷駅の1日あたりの乗降客数の合計	小田急中央林間駅、東急中央林間駅、小田急大和駅、相鉄大和駅、高座渋谷駅の1日の平均乗降客数の合計	426,447人	令和6年3月	432,844人	総合計画の人口推計における令和5年度から11年度の増加率(約1.5%)を踏まえ、目標年次には、現状値から1.5%程度増加していることを目標とした。
		北・中・南部地域の人口比率	北部： 公所、つきみ野、内山、中央林間、中央林間西、南林間、林間、下鶴間、鶴間、西鶴間 中部： 上草柳、桜森、深見西、深見東、深見上、深見下、深見台、大和東、大和南、中央、草柳、柳橋 南部： 福田、桜丘、上和田、上和田団地、代官、田中、中・下福田、渋谷、高等町、下和田、いちよう団地	北部： 48.6% 中部： 29.3% 南部： 22.1%	令和6年10月	北部： 48.6% 中部： 29.3% 南部： 22.1%	現状値を維持することを目標とした。
7-2-2	気軽に移動できる環境が整っている	公共交通機関を利用しやすいと思う市民の割合	市政世論調査で測定	70.6%	令和6年9月	向上	継続的な向上を目指す。
		徒歩や自転車、車でも快適に移動できると思う市民の割合	市政世論調査で測定	63.0%	令和6年9月	向上	継続的な向上を目指す。
		都市計画道路の整備率	整備済延長 / 都市計画道路延長 × 100	65.1%	令和6年3月	65.5%	令和6年度時点で令和11年度末までに計画している都市計画道路の整備が全て終わることを目標とした。
		コミュニティバスの1日あたりの利用者数	のろっと、やまとん GOの年間利用者数の合計 / 運行日数	1,979人	令和6年3月	2,009人	総合計画の人口推計における令和5年度から11年度の増加率(約1.5%)を踏まえ、目標年次には、現状値から1.5%程度増加していることを目標とした。
		放置自転車等の移動台数(自転車等放置禁止区域)	自転車等放置禁止区域に放置された自転車の移動台数	420台	令和6年3月	252台	目標年次には、現状値から40%減少していることを目標とした。
7-2-3	公園を快適に利用している	公園を快適に利用できると思う市民の割合	市政世論調査で測定	54.3%	令和6年9月	向上	継続的な向上を目指す。
		市民1人あたりの都市公園面積	都市公園の総面積 / 人口	3.39㎡	令和6年3月	4.00㎡以上	目標年次には、大和市緑の基本計画における目標値(令和10年度で4.00㎡)以上に達することを目標とした。

その他の資料

■ 大和市民憲章

昭和54年2月1日制定

自然と人間との健全な調和のとれた大和市の輝かしい未来を目ざして、わたくしたちは、大和市民としての自覚と誇りをもって、市民ひとりひとりのしあわせを願いながら、ここに市民憲章を定めます。

- | | |
|--|--|
| <p>1. みんなで力をあわせて、
若さと明るさにあふれたまちをつくりましょう。</p> | <p>1. みんなで力をあわせて、
自然と環境の美しいまちをつくりましょう。</p> |
| <p>1. みんなで力をあわせて、
友情としあわせにつつまれたまちをつくりましょう。</p> | <p>1. みんなで力をあわせて、
きまりと平和を守るまちをつくりましょう。</p> |
| <p>1. みんなで力をあわせて、
教養と文化の豊かなまちをつくりましょう。</p> | |

■ 大和市歌

昭和39年2月1日制定

- | | | |
|---|---|---|
| <p>一．風光る 風光る
さわやかな 緑の大地
英気いまみなぎる ところ
富士阿夫利清く そびえて
ここにあり 躍進のまち
わが大和市 われらの大和市</p> | <p>二．わきあがる わきあがる
新しい 文化の泉
歴史ある 広野の土に
産業は日々に 栄えて
夢実る 繁栄のまち
わが大和市 われらの大和市</p> | <p>三．はるかゆく はるかゆく
境川 引地の流れ
たゆみなく 希望をこめて
人の和の 歌も明るく
明日を呼ぶ 栄光のまち
わが大和市 われらの大和市</p> |
|---|---|---|

■ 大和市「福祉の日」制定の趣旨

昭和50年12月25日告示

総ての人間が、その生存、快適な生活、環境等の権利が保障され、平和で豊かな生活を実現することを目的とした社会福祉は、順次各種施策の制度化等によりわが国においても整備されつつあるところであるが、社会福祉のより発展充実を期待するためには、積極的な行政施策はもとより、地域住民の連帯感に基づく深い理解と協力がなければならない。

大和市は、総ての市民がお互いに福祉について考え、反省する日として毎年10月15日を「福祉の日」と定め、社会福祉のより向上を期待するものである。

■ 大和市マスコットキャラクター



©1993 YAMATO CITY

花の精 やまとかのん

いつも草原のピンクの小さなお花の中にかくれています。魔法のステッキをかざしているんなところに花を咲かせ、すてきなかおりをひろげます。

緑の精 やまともっく

なかよしのオナガ君といっしょに空をとび、草や木や森や動物たちとおはなしをすることができます。いつもとってもあかるくってちょっといたずらだけど、みんなを元気づけてくれます。



©1993 YAMATO CITY



©1993 YAMATO CITY

ふれあいの精 やまところん

風に乗って、どこからともなくあらわれて、みんなにやさしさをくばってまわり、ころをあったかくしてくれます。

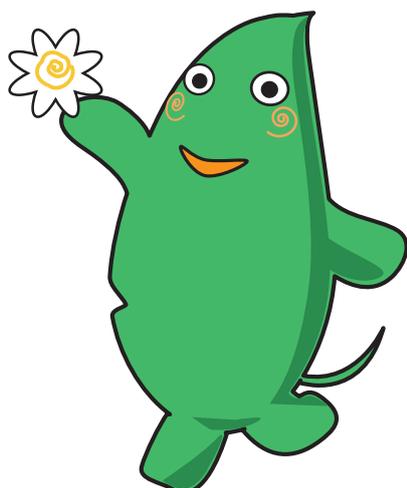


©1993 YAMATO CITY

水の精 やまとみずべー

森の湖にすんでいて、やさいやくだものが大好物。手にもつ葉っぱのかさをかざして雨をふらせます。みんなの心をうるおして、友情の輪をひろげます。

■ 大和市イベントキャラクター



ヤマトン

せいべつ	おとこの子
たんじょうび	8月8日
ねんれい	森ねんれいで3～4さい
せいかく	おっとりしてははずかしがりやさん。泉の森にすんでいて、こどもが大すき。ちょこっといたずらしておどろかせるかも…
すきなもの	おさんぽ・おまつり・はっぱの朝つゆ
とくいなこと	大なわとび

市章 (昭和 28 年 11 月 3 日制定)

大和市章

躍進大和市の「大」の文字の全体を円形にかたどり、鳥が翼を広げたような形は大和市将来の円満な飛躍発展を表徴したものです。



市の花 (昭和 44 年 2 月 1 日制定)

野ぎく



市の木 (昭和 44 年 2 月 1 日制定)

山ざくら



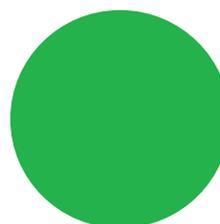
市の鳥 (平成元年 2 月 1 日制定)

オナガ



市のシンボルカラー (平成元年 2 月 1 日制定)

若みどり



福祉の日シンボルマーク (昭和 51 年 10 月 15 日制定)

3つの円は、国、市、住民と人間の輪を強調し、3つの若葉は、お互いの手を表わし、これからの社会福祉を育てるという意味を象徴しています。

また、「Y」の文字は、大和市の頭文字を型どり、大和市の福祉発展を表徴させたものです。



第10次大和市総合計画

令和7（2025）年度～令和16（2034）年度

令和7（2025）年2月発行

[編集・発行]

大和市

〒242-8601 大和市下鶴間一丁目1番1号

TEL 046-263-1111

<https://www.city.yamato.lg.jp>

